

鉄道博物館ナデ 6110 形式 6141 号電車の重要文化財指定に関する 記念行事の開催について

- 鉄道博物館に収蔵するナデ 6110 形式 6141 号電車は、2017 年 9 月 15 日（金）に重要文化財（美術工芸品）に指定されました。
- 鉄道博物館に収蔵する重要文化財は、1 号機関車（150 形式）（1997 年指定）、鉄道古文書（明治時代の鉄道創業期の鉄道建設・運営に関わる公文書群）（2003 年指定）、1 号御料車（初代）（2003 年指定）に次いで、4 件目になります。
- 本指定を記念して、鉄道博物館にて記念銘板除幕式および記念講演会を開催いたします。

1 記念銘板除幕式

- (1) 日時 2017 年 10 月 14 日（土） 13 時から 13 時 30 分まで
- (2) 場所 鉄道博物館 車両ステーション 1 階 ナデ 6110 形式 6141 号電車前
- (3) 観覧 入館料のみでご覧いただけます。

2 記念講演会

- (1) 日時 2017 年 10 月 14 日（土） 15 時から 16 時 30 分まで
- (2) 場所 鉄道博物館 てっぱくホール
- (3) 講演者 ① 茨城大学 教育学部 特任教授
堤 一郎（つつみ いちろう）様
② 公益財団法人 鉄道総合技術研究所 担当部長
小野田 滋（おのだ しげる） 様
- (4) 聴講 入館料のみでご聴講いただけます。
なお席に限りがありますので、ご着席いただけない場合もございます。あらかじめご了承ください。



鉄道博物館車両ステーション ナデ 6110 形式 6141 号電車 展示の様子

(参考資料) ナデ 6110 形式 6141 号電車について

○ 概要

- ・ 製造年 1914 年
- ・ 製造所 鉄道院新橋工場
- ・ 全長 約 16m
- ・ 定員 92 名(座席 48 人、吊手 44 人)

○ 車両の特徴及び今回の重要文化財指定に至るまでの経緯

- ・ 鉄道院最初のボギー電車（車体の前後に 2 軸の台車を装着した車両）として 1909 年に製造されたホデ 6100 形式の改良タイプで、ボギー電車では現存する最古の車両です。
- ・ 都市近郊における鉄道輸送の需要増大に対応するため、鉄道院で初の 3 扉車であるとともに、総括制御装置を本格的に導入し、重連運転を可能とした点が最大の特徴で、今日の国鉄・JR 電車の通勤型の原型となった設備をそなえた車両です。
- ・ 本電車は中央本線や山手線の電車区間で使用され、私鉄・国鉄間の移籍を繰り返したのち、1972 年には国鉄へ返還され、大井工場で復元工事が実施されるとともに、鉄道記念物に指定されました。2007 年の鉄道博物館開館時から展示しております。
- ・ 2017 年 3 月 10 日の文化庁の文化審議会答申を受け、国の重要文化財（美術工芸品）に指定される運びとなっております。

※参考：ナデ 6110 形式ナデ 6141 号電車の履歴

1914(大正 3)年 3 月 31 日	鉄道院新橋工場で製造
1914(大正 3)年 8 月 29 日	デハ 6293 に改番(デハ 6285 形式)
1925(大正 14)年 1 月	目黒蒲田電鉄(現・東京急行電鉄)に譲渡、モハ 41 となる(40 形)
1930(昭和 5)年 3 月	芝浦製作所に譲渡、工場の牽引車として事業用に使用(モハ 41)
1930(昭和 5)年末	鶴見臨港鉄道(現・JR 東日本鶴見線)に譲渡、モハ 202 となる(200 形)
1940(昭和 15)年	モハ 142 に改番(140 形)
1943(昭和 18)年 7 月 1 日	鶴見臨港鉄道国有化により国鉄に編入、モハ 142 となる(形式番号変わらず)
1950(昭和 25)年 7 月 30 日	日立電鉄(廃止)に譲渡、モハ 101 となる(モハ 101 形)
1964(昭和 39)年 12 月 23 日	デワ 101 に改番(電動貨車化)
1972(昭和 47)年 3 月	国鉄へ返還決定
1972(昭和 47)年 8 月	国鉄大井工場で復元・整備工事開始
1972(昭和 47)年 10 月 14 日	鉄道記念物に指定
1973(昭和 48)年 10 月 12 日	復元工事完成し大井工場で静態保存
1987(昭和 62)年 8 月	パンタグラフを併設し動態化、大井工場構内で走行
2007(平成 19)年 10 月 14 日	鉄道博物館に保存、展示